ケイパビリティ・アプローチの再検討

－理論的特徴と今後についての考察－

北星学園大学　　吉田　竜平（009353）

キーワード：アマルティア・セン、マーサ・ヌスバウム、ケイパビリティ・アプローチ

１．研 究 目 的

ケイパビリティ・アプローチは，アマルティア・センが 1980 年の論文「何の平等か（Equality of What?)」の中で提案した概念である．この概念は，人の福祉を，彼・彼女の所有する財とその特性を用いて人は何をなしうるかという「機能（functionings)」と，機能の組み合わせの選択によって明らかになる人間の能力「ケイパビリティ（capability)」によって捉えるアプローチである．ケイパビリティ・アプローチについての先行研究は，経営学，経済学，教育学，社会学，政治哲学などの学問領域で多くの蓄積があるが，社会福祉研究として取り扱ったものは他の学問領域と比して多くはない．岩崎（1998）は，社会福祉の人間観を「抽象的・形式的なとらえかたと，具体的・個別的な個のとらえかたの，いずれの極に組みすることもできずに，独自の個の捉え方（人間観）を模索してきたと言える」とし，センのケイパビリティ・アプローチは上記の両極の中間に位置するものとして，他のアプローチにはない魅力を有しており，社会福祉の人間観として十分に検討に値すると評価している．筆者もケイパビリティ・アプローチを社会福祉研究として取り扱うことは，社会福祉研究の更なる発展のための一助になると捉えている．

本研究の目的は，ケイパビリティ・アプローチを検討し，その理論的特徴と限界について明らかにし，ケイパビリティ・アプローチの更なる発展の為に必要な視点について検討する．

２．研究の視点および方法

本研究の方法は，文献研究である．研究の視点は次の 2 点である．第 1 に，取り扱う論者は，アマルティア・センとマーサ・ヌスバウムとする．その理由は，ケイパビリティ・アプローチはセンが開発し，ヌスバウムが発展させたという理解が一般的だからである．

第 2 に，ケイパビリティ・アプローチに関する先行研究のレビューを行い、センとヌスバウムのそれぞれになされている批判を含めて確認することで，ケイパビリティ・アプローチの限界を浮き彫りにすることが可能となると考える．

３．倫理的配慮

本研究は，（一社）日本社会福祉学会の研究倫理規程・研究ガイドラインを遵守する．

４．研 究 結 果

まず，センとヌスバウムのケイパビリティ・アプローチは，財や効用（厚生）ではなく，更に，機能よりもケイパビリティを重要視すること，追求すべきケイパビリティは，個人にとって価値あるものであり，政府は何をなすべきかを考えるとき，考慮しなければならないのはひとりひとりのケイパビリティであるということについて共通点がある．

次に，両者の相違点はリストの存在の有無である．セン（1989）は，人間観を一概に定めてしまうことへの疑問から，ケイパビリティの選択は問題の文脈に合わせてなされればよく，その選択は文化に従属するとして，ケイパビリティをリスト化せずに例示にとどめている．対するヌスバウムは，「人間らしくあるとはどのようなことか」「真に人間的な機能とは何なのか」という問いから，ケイパビリティの閾値を定めることを試み，人間の中心的な機能的ケイパビリティのリストとして具体的に 10 項目を具体化している．

センに対する主な批判は，包括的なインデックスが構築出来なければ，異個人間でのケイパビリティの平等/不平等を比較できないとして，ケイパビリティを具体化していないことに対して，アーネソン（2018），ヌスバウム（2012）らから批判がなされている．一方，ヌスバウムにも，ケイパビリティのリストは西洋中心主義である，パターナリズムに陥る，リストには重度精神遅滞の人にとって，もつことが困難と思われる項目が含まれている，など馬渕（2015）や神島（2015），キテイ（2005）らから批判がなされている．

５．考 察

ケイパビリティのリスト化の是非についての答えを出すのは非常に困難であり，ここにケイパビリティ・アプローチの限界がみられる．それでも，ケイパビリティを 10 項目に具体化したヌスバウムのリストは抽象的なケイパビリティ概念を具体化したという点で，一つの到達点として評価することができる．

センとヌスバウムのアプローチの優劣ではなく，理論的補完性に視点を移し，ヌスバウムの 10 項目のリストに加え，センの福祉的自由と行為主体的自由の 2 つの自由概念を導入し，リストの再構築を試みることが必要であると思われる．このことはケイパビリティ・アプローチの更なる発展に繋がる可能性がある．詳細は当日に報告する．

【文献】

・岩崎晋也（1998）「社会福祉の人間観と潜在能力アプローチ」『人間学報』291，49-68．／アマルティア・セン著，大庭健・川本隆史訳（1989）『合理的な愚か者』勁草書房．／リチャード・アーネソン著，米村幸太郎訳（2018）「平等と厚生機会の平等」『平等主義基本論文集』勁草書房．／マーサ・ヌスバウム著，神島裕子訳（2012）『正義のフロンティア』法政大学出版．／馬渕浩二（2015）『貧困の倫理学』平凡社．／神島裕子（2015）『ポスト・ロールズの正議論』ミネルヴァ書房．／Kittay, Eva Feder（2005）“Equality, dignity and disability” *Perspectives on Equality: The Second Seamus Heaney Lectures,* 95-122.